

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-3	バスターミナルを中心としたレジリエントなスマートシティ拠点の機能評価の研究開発	広島大学 教授 藤原 章正	B

<研究の概要>

主に呉バスタプロジェクトを対象に、災害に強いレジリエントなスマートシティ拠点機能の計測・評価手法の開発を行う。マクロな視点からみた都市間アクセス機能、メゾな視点からみた都市圏交通マネジメント機能、ミクロな視点から見た拠点内移動機能に分けてフィールド実験を通じて検証する。

<中間評価結果>

1. 研究最終年度にあたり、研究全体のとりまとめのイメージを明確にした上で各サブテーマの着地点を設定する必要がある。
2. ターミナル機能研究と SC 拠点評価手法の研究との関連付けの明確化や、さらにそれを踏まえた社会実験の展開を進めて頂きたい。併せて、バスタ配置による地域レジリエンスの向上についても研究を深度化して頂きたい。
3. 道路局「バスタプロジェクト推進検討会」や広島国道事務所「呉駅交通ターミナル整備事業」への研究成果のフィードバックを期待して、研究を継続していただきたい。

<今後の研究計画・方法への指摘事項>

- ・ グリーンスローモビリティの有用性について、明示的に明らかにして頂くのが望ましい。心理学や平和学の専門家の寄与について、今年までの成果と次年度の研究内容を、具体的に示して頂きたい。
- ・ 研究全体の体系と各サブテーマの位置づけが不明確なままであり、関連がなくバラバラに実施されているように見える。それらの位置づけを明確にするとともに、研究最終年度であるので、研究全体のとりまとめのイメージを明確にした上で各サブテーマの着地点を設定する必要がある。
- ・ 3. (2) レジリエントなスマートシティ拠点に関する情報収集の研究については、情報収集と整理に留まっており、本研究の中で果たすべき役割をより明確にしつつ、研究の着地点を明確にすべきと考える。
- ・ 大規模災害時の交通ターミナルの機能ニーズについては、地震、豪雨、大雪などハザードによって異なる可能性があり、それぞれに整理をしていただきたい。（全てのハザードに共通するニーズ、ハザード毎に異なるニーズがあるのではないか）
- ・ 5. 多岐に亘る研究内容のつながりや、成果をどのように統合しとりまとめていくのかを意識していただきつつ、最終的には、道路管理者が各機能の確保に必要な施設・備品等の配備基準や運用手順の策定に活用できるような成果を期待したい。

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第45回新道路技術会議において審議したものである。